

平成 20 年 5 月 28 日
社団法人日本物流団体連合会

第 9 回「物流環境大賞」の受賞者を決定

「大賞」は 2 件 $\left(\begin{array}{l} \text{「アイドリングストップ冷暖房システム」} \\ \text{と、「TOYOTA LONG PASS EXPRESS」に決定} \end{array} \right)$

当連合会は、平成 20 年 5 月 21 日、物流環境大賞選考委員会(委員長:岡部正彦(社)日本物流団体連合会会長)を開催し、第 9 回「物流環境大賞」の受賞者を別紙のとおり決定いたしました。

本年は環境をメインテーマにした洞爺湖サミット開催年、京都議定書の第一約束期間に入る年であり、環境という観点では節目の年にあたります。物流部門においても、環境に対する先進的な取り組みを広く表彰することで、環境保全の推進や環境意識の高揚を図ることを目的として、本年については、物流環境大賞の表彰を 2 件選定することとしました。

なお、表彰式は平成 20 年 6 月 19 日(木)、霞山會館において開催される第 17 回通常総会の席上において行なわれます。

以上

添付資料

別紙 1: 第 9 回表彰受賞者の概要

別紙 2: 物流環境大賞について

別紙 3: 第 9 回物流環境大賞選考委員会委員名簿

担当:(社)日本物流団体連合会

事務局 しんがい 新開 英介

TEL:03-3593-0139

Mail:Shingai@butsuryu.or.jp

第 9 回表彰受賞者の概要

1. 物流環境大賞 (2 件)

被表彰者：東京電力株式会社 / 日野自動車株式会社
株式会社デンソー / 大崎電気工業株式会社【共同申請】
功績事項：トラックの「外部電源式アイドリングストップ冷暖房システム」
の開発・実用化

荷待ち等によりやむを得ずアイドリング状態で待機する必要性のある営業用トラックにおいて、運転席に設置する外部電源式冷暖房装置に駐車場に設置する給電スタンドから系統電力を直接供給するシステムを開発した。これにより、CO₂ 排出量を大幅に削減するだけでなく地域住民にとってもアイドリングによる騒音等の解消や、環境負荷物質の低減が可能になった。

被表彰者：トヨタ自動車株式会社 / トヨタ輸送株式会社
日本通運株式会社 / 日本貨物鉄道株式会社【共同申請】
功績事項：TOYOTA LONG PASS EXPRESS による自動車部品輸送

自動車生産用部品の大動脈である愛知～岩手(名古屋南貨物駅～盛岡貨物ターミナル駅)間(約 900km)で 31ft コンテナを使用した専用列車を 2 往復運行することで 10 トントラック 160 台/日に相当する貨物のモーダルシフトを行った。年間約 14,000 トンの CO₂ 排出量削減の効果があり、リードタイムも 3.0 日から 2.25 日への短縮を実現した。

2. 物流環境保全活動賞 (1 件)

被表彰者：日本貨物鉄道株式会社
功績事項：鳥栖貨物ターミナル駅開業に伴う高速コンテナ列車(鳥栖号)による
モーダルシフトの推進

鉄道貨物輸送の需要が旺盛な、自動車産業等工業の集積が進んでいる東海地区と東アジアへの日本の玄関口として一大物流拠点となっている鳥栖地区を直結した、多くの荷主にとって利用しやすいダイヤで、誰でも利用できる高速コンテナ列車を増発した。これにより中小荷主を含めた輸送ニーズへの対応だけでなく、途中停車駅発着貨物にも対応することで、他モードから鉄道へのモーダルシフト推進に貢献。年間約 11,000 トンの CO₂ 排出量削減の効果を得られた。

3. 物流環境啓蒙賞 (1 件)

被表彰者：日本通運株式会社

功績事項：マニフェスト管理システムの活用による適正化指導および循環型社会形成への社員教育

産業廃棄物処理委託契約書の内容をデータベース化し、都度送付されるマニフェストの有無、委託業者の確認、マニフェストの回収期限などを自動的にチェックするシステムを構築し、これを活用することで、データをもとに日々適正化指導を行っている。また、廃棄物の適正処理に関するテキストを作成し、マニフェストの交付担当者への教育を行い、産業廃棄物の排出事業者としての適正化、廃棄物を通じた社員への環境教育および啓蒙を図った。

4. 物流環境負荷軽減技術開発賞 (1 件)

被表彰者：プロロジス

功績事項：大型施設開発における PC(プレキャストコンクリート)免震構造採用による CO₂ 排出削減への取組

大型物流施設開発時に構造躯体の PC 化、免震構造を採用することで、工事現場での作業が大幅に削減され、建設資材の工事車両数、建設時の CO₂ 排出量を削減することができるだけでなく、建物が長寿命化し、ライフサイクル CO₂ 排出量(LCCO₂)を削減することができる取組を行っている。

5. 物流環境特別賞 (5 件)

被表彰者：シスメックス物流株式会社

功績事項：天然ガス 10 トントラック(エコトラック)の導入

天然ガスを燃料とするエコトラックは単位発熱量あたりの CO₂ 発生量が軽油より少ない。天然ガス 10 トントラック(エコトラック)により、兵庫県小野市の同社小野物流センターと大阪市舞洲の倉庫間を 1 日 2 往復運行。CO₂ 排出量を 10~20%削減しているだけでなく、黒煙や臭いの防止にも大きく貢献している。

被表彰者：佐川急便株式会社

功績事項：複合大型ビルや商業施設における館内物流システムの構築による
環境負荷の軽減

都市内大型複合施設における物流効率化の向上・物流環境の維持を目的にプロジェクトチームを編成し、館内物流センターの運営を行っている。宅配便、バイク便、一般商業貨物を荷捌き場で集約し共同配送するだけでなく、車両誘導係を設置することで、駐車時間の短縮、場内事故の撲滅を図っている。これによりビル内の車両渋滞や周辺の交通渋滞が緩和され、環境負荷が低減された。東京オペラシティで構築したシステムがモデルとなり、六本木ヒルズや東京ミッドタウンへの取り組みに発展している。

被表彰者：住電日立ケーブル株式会社 / タツタ電線株式会社
大電株式会社【共同申請】

功績事項：パートナーシップによる電線ドラム輸送の JR 大型コンテナを利用して鉄道輸送へのモーダルシフト事業

電線ドラム及び電線ケーブル等の積載効率アップ、荷物事故防止、輸送コストの削減及び地球環境に優しい輸送システムの構築等を目標に掲げ、佐賀～大阪各工場間輸送について、現行のトラック輸送及び 12ft コンテナ鉄道輸送を、JR 貨物用 31ft 大型コンテナを導入することで、鉄道輸送へのモーダルシフトを行った。これにより 60.7%の省エネ効果が得られた。

被表彰者：川崎汽船株式会社

功績事項：伊勢・三河湾内における自動車船減速航行の実施

海上法規で最高速度を 12 ノット(約 22km)以下に制限されている伊良湖水道航路を通過後、通常は、伊勢・三河湾内の各港外までの間、速度を 15～16 ノット(約 28km)まで引き上げて航行しているが、水道通過後も船舶の速力を上げずにそのまま港外まで維持して航行することにより 1 隻あたり片道平均 1.7トンの CO₂ 排出量削減を図っている。

被表彰者：株式会社住友倉庫

功績事項：大阪・南港に建設する物流施設に太陽光パネルを設置

新施設建設に伴い屋上緑化(1,400m²)と太陽光発電システムを導入することにより年間約 200トンの CO₂ 削減効果がある。またコンテナヤード近くに建設することによりトレーラー陸送距離を短縮、更に再保管在庫を集約するなど在庫を一括集中管理することにより、さらなる CO₂ 排出量削減を図っている。

物流環境大賞について

物流環境大賞は、社団法人日本物流団体連合会が平成12年度より制定致したものであります。

その趣旨は、近年、物流分野においても環境問題への対応が益々重要となっている現状に鑑みまして、物流部門において環境保全活動や環境啓蒙活動等の面で優れた功績を残された団体、企業又は個人を表彰する制度を設け、もって環境施策の一層の推進を図ることと致したいというものであります。

毎年、物流環境大賞選考委員会（委員長 岡部正彦 日本物流団体連合会会長）で、被表彰者を選考の上通常総会において表彰することと致しております。

第 9 回物流環境大賞選考委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

(選考委員会)

委員長	岡部 正彦	(社)日本物流団体連合会会長
副委員長	野尻 俊明	流通経済大学学長
委員	甲斐 正彰	国土交通省政策統括官付参事官
	山下 恭弘	交通エコロジー・モビリティ財団理事長
	谷利 亨	(株)日通総合研究所顧問
		(財)運輸低公害車普及機構調査役
	西村 国紀	(株)カーゴ・ジャパン社長
	金田 好生	(社)日本物流団体連合会環境問題委員会委員長
	玉越 光和	(社)日本物流団体連合会政策・広報委員会委員
	平山 芳昭	(社)日本物流団体連合会理事長

(予備選考委員会)

委員長	野尻 俊明	流通経済大学学長
委員	谷利 亨	(株)日通総合研究所顧問
	西村 国紀	(株)カーゴ・ジャパン社長
	平山 芳昭	(社)日本物流団体連合会理事長